

1-2

訪問歯科診療との合同による口腔ケアの実践

口腔ケアにより、いかにリスクが減ったのか

訪問歯科診療

口腔ケア

特別養護老人ホーム 白楽荘

介護福祉士 佐藤 静江

介護職員 堀内麻衣子 朝比奈 梓

東京都多摩市山王下1-18-2

看護職員 吉田昭子 聖和会永山センター歯科

TEL 042-376-1811

E-mail shibata@rakuyuukai.com

FAX 042-371-1562

URL <http://www.rakuyuukai.com>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人楽友会が母体である特別養護老人ホーム白楽荘は昭和49年7月に開設。定員150名、短期入所10名の大規模な高齢者介護福祉施設です。多摩の景色を一望できる高台にあり、お部屋の窓からは多摩一面が広がります。

〈取り組んだ課題〉

当施設は昭和49年開設（100床）し、当初はADL自立の利用者が大部分を占めていたが、その後咀嚼、嚥下に問題がある利用者が増加し、口腔内に残渣物が残ることによる「誤嚥性肺炎」「細菌性肺炎」などの誘発の危険と活動性の低下が見られた。平成8年現場所に移転、増床（150床）に伴い、「口腔内のトラブルがいかに全身状態に悪影響を及ぼすか」ということから、歯科診療、口腔ケアの重要性を認識した。よって歯科診療、口腔ケアの実践を通してどのような結果をもたらしたか、口腔ケアがいかに有効であるかを考察した。

- 歯周病患者を減少させること
- 「誤嚥性肺炎」「細菌性肺炎」を減少させること
- 口腔ケアを理解し、職員全体に口腔ケアの重要性を周知すること

〈具体的な取り組み〉

- 歯科通院から歯科往診に変更
協力医療機関として「聖和会 永山センター歯科」に依頼し、現在週3回の往診をお願いする。
- 施設内に歯科診療台を設置する。
- 治療、義歯調整・作成のみでなく、「口腔ケア」の開始
口腔ケアに対していち早く研究し、その実践の場を求めていた永山センター歯科と施設内の問題が一致し、口腔ケアを開始することになった。

【目的】

- ・ 歯肉炎の軽減、予防、疼痛緩和
- ・ 全身疾患の予防→プラーク除去（デンチャーブラーク、舌苔も含む）
- ・ 口臭の軽減

【具体的には】

- ・ 歯科医、歯科衛生士によるケア
- ・ 口腔ケアプランの作成
- ・ 介護職員に対して歯科医、歯科衛生士による口腔ケアの指導
- ・ 介護職員、看護職員による食後の口腔内の清掃。
（舌ブラシ：名称ハミンググッドの使用）
- ・ 誤嚥防止のために食事前に口腔体操を実施。

〈活動の成果と評価〉

- 往診依頼また回数を増やすことにより歯科治療が迅速かつ早期治療が可能になり、また義歯による疼痛、急性症状、歯肉、粘膜の炎症が減少した。
- 口腔ケアプランと施設ケアプランを連動させることにより、利用者への口腔ケア対応が密になった。
- 口腔内清掃を徹底することにより、口腔内の衛生管理の重要性が理解でき、さらに口臭予防、能力の低下予防、細菌性肺炎の減少に繋がった。
- ケアプランに咀嚼、嚥下能力の低下予防のため、口腔体操の実践やその方にあった食事を検討、提供することを明記し、実践することにより、安全な食事の提供やその方の残存機能をキープすることができた。
- 歯科医、歯科衛生士から職員に対して口腔ケアの指導を受けることにより、職員の介護力向上に繋がった。

〈今後の課題〉

- より専門的な知識を研修という形で学ぶ機会を作る。
- 結果や効果を数値化して、今後の対応に生かし、「誤嚥性肺炎」「細菌性肺炎」による入院者を減らす。

〈参考資料など〉

- 「医療法人社団 聖和会 歯科往診部
口腔疾患・ケアマニュアル」